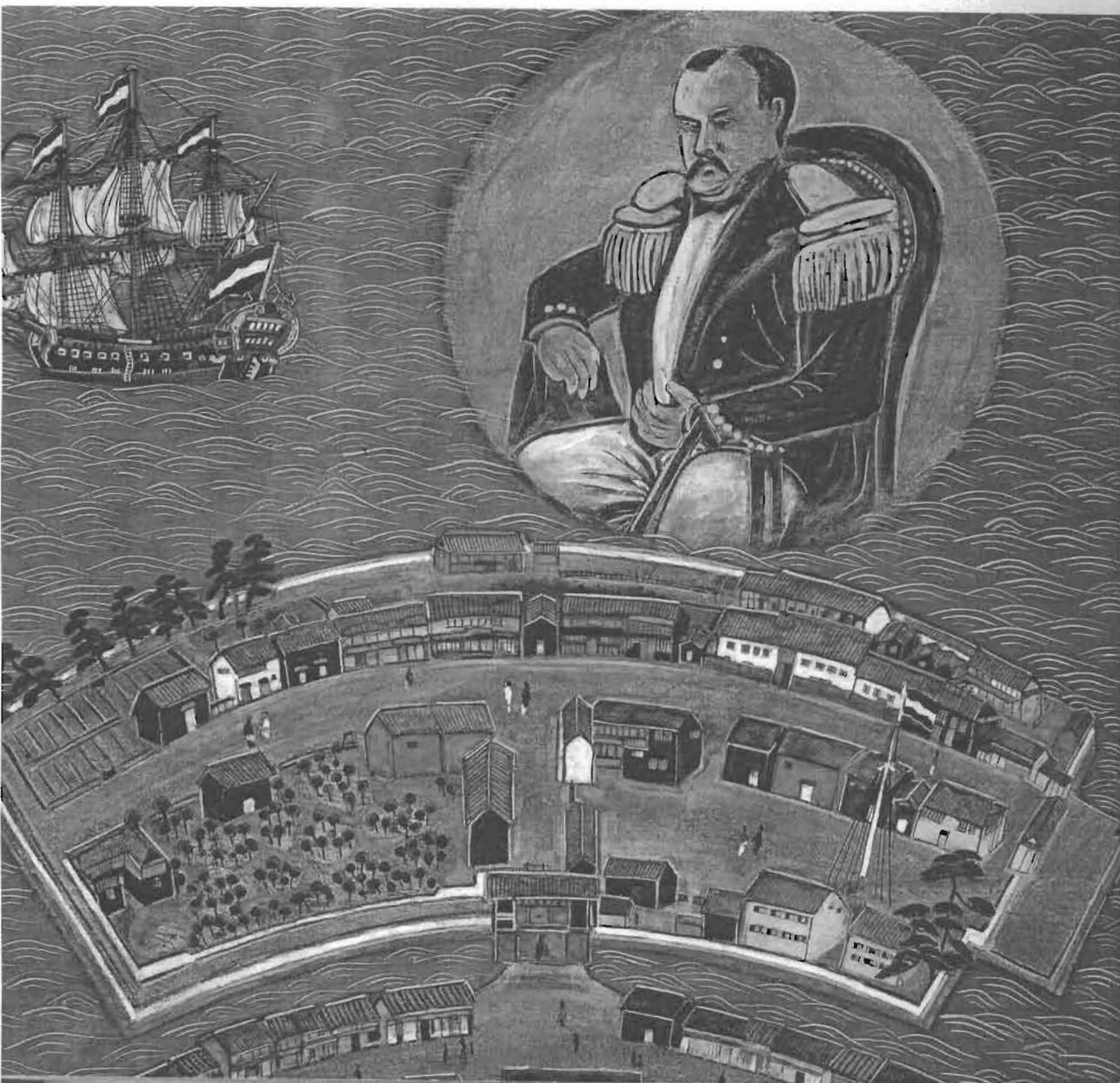


# 文藝春秋

大正十二年一月三十日第三種郵便物認可  
平成二十二年六月一日発行(毎月一回一日発行)  
第八十八巻第八号(五月十日発売)

オバマの決断 爾後、鳩山政権ヲ对手トセズ  
王貞治が初めて語った「国籍」長嶋茂雄 六月号



# 先端医療が受診できるクリニック

No.1

【がん①】(食道・胃・大腸内視鏡・乳房温存・甲状腺)

## 亀田MTGクリニック

千葉県美浜区 ☎043-296-2610

消化器がん検査の先駆け。光島徹院長は1983年、全国に先駆けて「内視鏡大腸がん検診」を開始。これまでに検査を手がけた受診件数延べ12万5000件以上は圧倒的な世界一。

## お茶の水駿河台クリニック

東京都千代田区 ☎03-5280-9122

東京医科歯科大学医学部臨床教授の中元和也院長は消化器内視鏡検査の名手。予約から「3日以内」に可能なMRIとCT検査は、1時間後に報告書と検査画像を受け取る。

## 岡本平次クリニック

東京都渋谷区 ☎03-5485-8600

大腸・直腸・胃内視鏡検査の専門クリニック。岡本平次院長は医師歴38年目。特に大腸内視鏡のバイオニアとして有名。同検査数8万件のほか、胃・十二指腸内視鏡検査4万件。

## サンクリニック

東京都墨田区 ☎03-5625-2067

癒しのアートセラピーを導入した環境で、乳がん検診数が年間2000件超。トップクラスの亀田総合病院と電子カルテを共有し、緊急MRI検査や治療の待ち時間が1~2週間程度。

## プレストクリニック築地

東京都中央区 ☎03-3541-3551

乳がん術後専門クリニック。聖路加国際病院プレストセンターと連携し、猿丸修平院長らが術後フォローとホルモン療法に特化した診療を、待ち時間も短く、丁寧に行う。

## 国領めいようクリニック

東京都調布市 ☎042-440-1515

2009年2月開業。1973年生まれの濱中久尚院長は、消化器内視鏡の若きスペシャリスト。国立がんセンター中央病院などと連携し、内視鏡検査からがんの在宅医療まで精力的。

## 三河乳がんクリニック

愛知県安城市 ☎0566-77-5211

東海地区初の乳腺疾患専門の有床診療施設として2009年に開業した。水谷三浩院長は愛知県がんセンター愛知病院乳腺科初代部長などを歴任。乳がん診断と治療技術では折り紙付き。

## 加藤乳腺クリニック

滋賀県草津市 ☎077-566-7808

加藤誠院長は1959年、三重県生まれ。済生会滋賀県病院乳腺胸部外科部長を経て、2003年開院。乳がん手術数1000例以上。内視鏡手術による「美しい乳房温存療法」が得意。

## 京都プレストセンター 沢井診療所

京都市北区 ☎075-723-0811

沢井清司院長は1947年、京都府生まれ。京都府立医科大学大学院教授から、2006年11月に乳がん専門クリニック開院。全国から患者が押し寄せ、3年余で患者数1万人を超えた。

## 大阪プレストクリニック

大阪市福島区 ☎06-6454-4108

芝英一院長は関西屈指の乳がん名医。大阪大学病院腫瘍外科助教。最新の乳がん診療を安全、快適に」を理念に、2005年9月より診療開始。乳がん治療が1年間に240例。

## やましたクリニック

福岡市博多区 ☎092-281-1300

九州大学医学部附属病院と連携する最先端の甲状腺専門クリニック。2006年7月開院以来、高い評判を聞いた患者が九州全域から殺到している。セカンドオピニオンは30分1万円。

## 那覇西クリニック

沖縄県那覇市 ☎098-858-5557

乳がん専門クリニック。「患者中心の医療」を掲げて1996年5月に開院。団塊世代である玉城信光理事長らが、沖縄県全体の約4割にあたる年間260件の乳がん治療をこなす。

【がん②放射線治療】(肺がん・前立腺がん・肝臓がん・頭頸部がん・子宮がん)

## 東京放射線クリニック

東京都江東区 ☎03-3529-5420

癌研有明病院認定クリニック。三次元画像診断から、「強度変調放射線」と増感剤を組み合わせた最先端のがん治療まで。自費診療も可能で、午後6~9時の「夜間診療」も。

## 都島放射線科クリニック

大阪市都島区 ☎06-6923-3501

外来でのがんの放射線治療専門クリニック。最新技術の「定位放射線」と「強度変調放射線」に特化し、従来のがん治療とは一線を画す。開院3年で新規患者数755人。

## 広島平和クリニック 高精度がん放射線治療センター

広島市中区 ☎082-532-2211

世界最先端の放射線治療装置ノバリスTXを導入し、快適なアメニティの中、廣川裕院長らが「PET-CTを利用した高精度で痛くない通院でのがん治療」と取り組む。

都内在住の四十歳男性は、下垂体腺腫。一昨年夏頃、視力低下が気になって検査を受けたところ、脳下垂体に4センチの良性腫瘍が見つかった。十月には脳の外科手術を受けたが取り残した腫瘍があったため、ガンマナイフを勧められた。今年二月には、一時間半足らずで治療が成功し、その三日後には早くも職場復帰したという。

また、関西在住の三十八歳男性の場合は、一昨年初頭、海外赴任先ドイツの病院で脳動静脈奇形と診断された。脳の血管奇形が絡み合っていてクモ膜下出血の引き金にもなるという怖い病気である。治療率五〇%以下ともされ、担当医は「手がつけられない」と、お手上げの顔でいった。

治してくれる病院はどこにあるか、インターネットで医療情報を調べた男性が、林医師が主宰する専門サイト「ガンマナイフカフェ」を偶然目にしたのは人生の幸運だった。同年三月、治療は成功。「完治です。二年後の現

在はぴんぴんしています」(林医師)